

令和5年度 第1回 愛宕小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和5年5月26日（金）13：30～15：30

2 場 所 愛宕小学校 本館2階 会議室

3 挨拶・自己紹介

【委員長】

学校と地域のつながりの大切さを感じている。「学校だより」が回覧されていることで、地域の話題となっている。自治会長会でも紹介している。

【校長】

地域の方々には、4月から既に様々な学校行事等にボランティアとして参加していただき、助けていただいている。感謝している。学校生活も日常に近い形に戻ってきた。様々な教育活動のねらいを見極め、地域と連携しながらより良い形で進めていきたいので、これからも助けていただけると有難い。

4 協議

（1）令和5年度学校運営協議会の運営及び年間計画について

（学校運営協議会日程と学校・地域行事日程等を確認）

（2）令和5年度学校経営の改革方針及び学校関係者評価について

（改革方針と学校関係者評価について協議）

・地域教材とは何か。

→学習のねらいに適した地域にある身近な産業や歴史的遺構等。このような教材を活用した学習は、子どもの興味関心を高め、より意欲的に深く学ぶことができ、愛宕の町が好きになり誇りを持てる。

・3年生校外学習「まちたんけん」の引率支援の時に、子どもたちから町の人たちに気持ちのよい挨拶ができていた。町の人も元気をもらった。

・朝の登校見守りの「挨拶運動」では、大方の子どもたちが挨拶をしてくれる。一方で、始業時間ぎりぎりに登校する子の中には、元気がなく不安そうに通う子もいるので、心配している。

→担任等が児童の様子を観察し、声をかけるようにしている。しっかり見守ってきたい。

・幼稚園と保育所・園の教育方針の違いを感じたことがある。1年生では、育ちが違う子が集まることで、いじめ等は起きていないか。

→幼稚園と保育所・園というより、それぞれの園によって方針が様々である。最初は戸惑う子もいるが、成長の中で少しずつ集団生活を送れるようになる。子ども同士の主張がぶつかることはあるが、担任等が間に入り、子ども同士の話し合いを繰り返すことで、友だちとのつながりを学んでいっている。

(3) 地域づくり協議会との連携授業について

(連携事業の日程の確認)

- ・他にも、8/1(火)早朝に「ラジオ体操」がある。また、8/24(木)～25(金)に地域のお祭りである「地蔵盆」が本格的に再開する。
- ・一般的には「子ども食堂」は貧困家庭の支援を目的としているが、愛宕地区では、子ども食堂の名称を「かもめっこ」とし、誰もが参加できる子どもたちの居場所作り事業として展開している。多くの子どもたちに来てもらいたい。
- ・保護者の中には、「子ども食堂」の参加について躊躇している人もいる。誰もが参加できる事業なので、保護者に周知していきたい。

(4) 学校支援ボランティアの活動について

(ボランティアの活動内容等について確認)

- ・コロナ禍の中、募集についてマチコミで配信する方法となったが、ご高齢の方々にとっては確認や申込が難しい。また、以前参加してもらっていた方々に連絡が届いていないこともわかった。文書でも配布することで、もっと参加が増える。
→連絡内容によっては、文書等による方法も検討していく。

(5) 施設・設備等の課題について

(要望箇所の進捗状況等を確認)

(6) 校区の危険箇所について

(現時点の危険箇所を確認し、その他にないか情報提供を依頼)

(7) その他

(令和5年度学校配当予算等を確認)

(8) 次回の予定

- ・第2回 6月23日(金)9:00 愛宕小学校2階会議室

5 コミュニティ・スクール推進コーディネーター(教育支援課)より

- ・愛宕小学校は、地域づくり協議会としっかり連携ができている。今後も連携を大切にし、取組を進めてほしい。
- ・新型コロナウイルスの流行により、学校の取組が停滞したことにより、ボランティアの人員が減っている。コロナ禍以前の取組状況に戻れるよう、人材を確保し、学習ボランティアの充実を図ってほしい。募集の際、ボランティアの内容を詳しく具体的に伝えることで、その内容ならと参加する人が増えた事例もある。
- ・校区内の地域教材を学習にいかすことは、とても素晴らしい取組である。身近な事柄から学ぶことにより、子どもたちが愛宕地区に誇りと愛着を感じられるようになる。長い目でみると、育った子どもたちが町に戻り、地元で活動していく「町おこし」として発展していく。